

道路技術小委員会 舗装分野会議からの報告事項

道路技術小委員会 舗装分野会議 座長報告

- ◇ 「舗装の構造に関する技術基準」の改定にあたり、「舗装分野会議」において、専門的見地から検討したので、その状況を報告する。
- ◇ 改定の主な目的は、「舗装の性能の明確化」、「設計と管理の整合」、「舗装のライフサイクルを考慮した設計」などについて、審議を行ってきた。
- ◇ これらの検討事項について、舗装分野会議では、以下のような意見があった。

【舗装分野会議における主な意見】

- ・ 舗装に求められる性能を定義することは、技術的には非常にいいことである。
- ・ 舗装と基盤が一体となることで荷重を支持する性能を発揮することを規定することは、いいことである。
- ・ コンポジット舗装はアスファルトで扱うのか、コンクリート舗装で扱うのか、管理する人にわかりやすくすることが重要である。
- ・ 技術基準と点検要領の性能指標を整合させることが重要である。
- ・ 技術基準として、性能指標と指標値について国が規定することについては理解できる。
- ・ 新しいものを取り込んでいけるような方向にすることは重要である。
- ・ 新しい技術や新しい構造を評価する時に、今のような実大試験は大変だから、もっと簡便的にできる方法を検討してもいいのではないか。
- ・ カーボンニュートラルは非常に重要なことなので、新しい技術基準では積極的に使用していくようなメッセージとするべきである。

(次頁へ続く)

- ・ 廃棄された合材を、またその合材として再生する水平リサイクルの推進を押し進めていくことは重要である。
- ・ 再生材は繰り返し利用で品質が低下していくので、再生材の普及を促進するため、品質の低下を抑制する方法を探っていく必要がある。
- ・ 再生合材は路面性状など調べてみて、正しく作られたものは積極的に使っていくという方向は重要である。
- ・ 舗装の施工の記録や保存については、新設だけでなく補修工事等についても同じように記録や保存することは重要である。
- ・ 地方自治体に対して、新しい基準について講習会を実施するなど、周知していくことが重要である。

◇ 今後、継続して取り組むべき課題として、以下のような意見があった。

【舗装分野会議における主な意見】

- ・ 新技術活用へのブレーキがかからないように検討することが求められる。
- ・ 継続性のあり方として、技術基準は逐次見直しをしていくことが必要である。

道路技術小委員会 舗装分野会議

【有識者】

◎:委員長

- ◎秋葉 正一 日本大学 生産工学部 土木工学科 教授
亀山 修一 北海道科学大学 工学部 都市環境学科 教授
小梁川 雅 東京農業大学 名誉教授
高橋 茂樹 金沢工業大学 工学部 環境土木工学科 教授
竹内 康 東京農業大学 地域環境科学部 地域創成科学科 教授

(50音順)

【実務者】

- 関東地方整備局 道路部 道路保全企画官
北陸地方整備局 道路部 道路情報管理官
茨城県 土木部 道路維持課長
栃木県 県土整備部 道路保全課長
千葉県 県土整備部 道路環境課長
東京都 建設局 道路管理部 保全課長
新潟県 土木部 道路管理課 課長補佐
横浜市 道路局 道路部長
松本市 建設部 建設部長
十津川村 建設課長
(株)高速道路総合技術研究所 道路研究部 舗装研究担当部長

【審議状況】

- 第4回 令和5年 3月27日
第5回 令和5年10月24日
第6回 令和6年 2月21日
第7回 令和7年 1月31日
第8回 令和7年 3月 7日
第9回 令和7年 3月27日

【意見聴取】

令和7年7月16日～17日、令和7年8月20日～21日